

令和7年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京極幼稚園）

教育目標	遊びを楽しみ、心豊かにたくましく生きる子どもの育成
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月（予定）	京極幼稚園学校運営協議会
最終評価	令和8年3月（予定）	京極幼稚園学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
・少人数園であること・外国にルーツを持つ子どもが多数在籍すること・地域や近隣の保育園や小学校との連携が密であることなど、本園の特長を生かした保育の充実に努める。
・感情を共有し“伝えたい”“わかりたい”と思う心を育むこと、一人一人の子どもが自分らしさを發揮して前向きに取り組む子どもの育成をめざし、『やってみよう』と感じる環境づくりを行う。
・子どもの育ちや環境や援助を、エピソードや週案の振り返りなどで記録し、教職員で共有し、さらに工夫を重ねる。

(取組結果を検証する) 各種指標
・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。
・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。
・アンケート

中間評価

各種指標結果
・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。

担任が作成した週案を基に、園長や他の教員との話し合いを行うことで、活動の意味や一人一人

の子どもの育ちや課題、援助について共有することができた。

- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。

前期に、研究保育を2回行い、指導助言を得ることができ、保育環境や活動の充実を図ることができた。

- ・アンケート

① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して過ごしている。

② 子どもは、幼稚園での遊びや生活を楽しんでいる。

《いざれも100%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答。》

自己評価	分析 (成果と課題)
	安心感が増してくる中で、一人一人の子どもの『やってみたい』ことを、実現しようという意欲は高まっている。 特に、体を使って、精一杯の力を出しきって遊ぶこと、『もう少し頑張ったらできそう!』な活動に挑戦できる環境、どろ・ねんど・すな・みず・えのぐなど『素朴な素材』で充分に遊べる環境を作っていく。
	分析を踏まえた取組の改善 『安心感』『楽しさ』は園生活の最も大切なことであるので、今後さらに、子どもたちはもちろんのこと、保護者の方々と園が『育ち』やその『過程』について日々共有できる機会を大切にすることで、保護者にとっての『安心感』もさらに高めていけるようとする。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none">・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。・アンケート
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 園児たちが、先生方にとても心を開いて、安心感を高めている。 様々な体の動きを経験していることが、体を動かすことを楽しむ姿がよくみられた。 保護者が安心して子どもを通わせている結果がアンケートに反映されていると思う。 多様な経験の一つとして、上京区での合同保育も引き続き行っていってほしい 12月8日の『京極EXPO』もPTAと運営協議会の共催とし、応援しいでいきたい。またこの機会を京極幼稚園のことを広く知らせる機会としていってほしい。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続について

具体的な取組

- ・幼保小で交流についての年間計画やチーム分けを検討、作成する。交流前後の打合せ時には、子ども同士の思い、子どもの姿の読み取りやねらいなどについての共通理解を大切にする。(京極小学校・鶴山保育所) また、交流保育の在り方を考えながら、保幼小の交流保育を進める。(室町小学校)
- ・互いの保育や授業を参観する機会や研究の資料等の共有により、接続に必要な環境や援助を整理し、架け橋期のカリキュラムの検証及び修正を行う。(京極小学校)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。
- ・小学校と連携して行う架け橋期のカリキュラムの検証及び修正の状況。
- ・就学前の情報交換(支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継)。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。
- ・小学校と連携して行う架け橋期のカリキュラムの検証及び修正の状況。前期は具体的な取組を行つたので、後期に行っていく。
- ・就学前の情報交換(支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継)。支援シートは、要望のあった家庭に配布し、後期に小学校へ引継ぎを進める。
- ・アンケート⑨ 幼稚園は地域の保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。

《96%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答。》

自己評価

分析(成果と課題)

- ・全市的に見ても、小学校との交流後の『振り返り』の回数や質、幼稚園の研究保育への小学校教員の参加数や質などは、高く評価されている。
- ・来年度以降も、このような取組が継続できるような体制の確認を行っていく。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後架け橋期のカリキュラムの作成や検証も進めていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。
- ・小学校と連携して行う架け橋期のカリキュラムの検証及び修正の状況。
- ・就学前の情報交換(支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継)。
- ・アンケート

学校関係者評

学校関係者による意見・支援策

小学校へ行くこと、交流をすることを繰り返すことで、進学の際の安心感につながっている

価	
---	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもが安心して参加できるように、教員同士の情報共有を確実かつ丁寧にし、必要に応じて教職員全体で子どもの安全を確保しながら見守るようにする。未就園児の利用を念頭に入れ、特に安全で、充実した時間となるようにする。 異年齢、少人数だからこそできる活動や、語学ボランティアによる読み聞かせや、講師によるサッカーアクティビティやつくって遊ぶ活動、左京図書館とのコラボ体験など、豊かな体験ができるように、特別プログラムも計画する。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> 教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園3歳児の預かり保育を念頭において）。 預かり保育の参加人数。 アンケート

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> 教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園3歳児の預かり保育を念頭において）。通常保育と同じような指導計画を作成し、期ごとの見直しを行っている。未就園児3歳児の利用が多くなってきている状況を基に、活動内容や場所などの再構成を行っている。 預かり保育の参加人数。昨年と比べて、利用者・利用時間は増加傾向にある アンケート⑥ 子どもは、おひさま広場（預かり保育）を楽しんでいる。 <p>《ご利用の方の100%の保護者の方が『大変そう思う・そう思う』と回答》</p>	
自	分析 (成果と課題)

自己評価	<p>京極幼稚園は、今までの地域の方々との連携の成果として、預かり保育の時間に地域の方や団体など様々な方のご協力によって、多様な体験ができる機会がある。このつよみを今後も生かして、さらに内容の充実に努める。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>利用する子どもの状況も多様化しているため、一人一人が『落ち着ける』環境の工夫も重ねていく。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園3歳児の預かり保育を念頭において）。 ・預かり保育の参加人数。 ・アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>引き続き、地域の人的財産を生かして、預かり保育の充実に努めていってほしい。</p> <p>朝の預かりや保育後の預かりとともに利用者が伸びている</p> <p>保育園と同じ時間利用できることは、とても助かる。</p> <p>現在もしているが、預かり保育の様子もSNSなどでさらにアピールをしていてほしい。</p> <p>利用者増のため、環境つくりの工夫をさらに重ねていってほしい（活動の場所の多様化・矢必要に応じての個別化など）</p>

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・0～3歳の未就園の親子のクラス（ひよこ組）、2歳児親子（ぶちうさぎ組）が3歳児クラス（うさぎ組）の子どもや在園児と関わって遊ぶ機会を定期的にもつ。 ・未就園3歳児の預かり保育を安全にかつ安心して利用できる計画を作成する。 ・在園児の行事等に参加したり、在園児保護者との交流で子育てなどについて話したりする機会をもち、園の保育の雰囲気や良さを感じてもらえるようにする。 ・取組の様子をホームページ、チラシ、広報誌等でアピールしたり、小規模保育施設に働きかけたりすることで、より多く参加してもらえるようにし、入園者数増加につなげる。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p>
--------	---

- ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。
- ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。
- ・未就園3歳児の預かり保育利用人数。

中間評価

各種指標結果

- ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。誕生日に偏りがあるため、実施回数は年間4回としているが、クラスや国籍を超えた多様な意見を交わすことができている。
- ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。ほぼ昨年並みである。
- ・未就園3歳児の預かり保育利用人数。利用者数は全員が利用経験ありで、延べ人数や利用時間も多くなってきている

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育て広場では、さらに『子育て』の楽しさやたいへんさを共有し、次の日からの保護者の方々のエネルギーアップの一助となれるような内容の工夫をする。 ・在園児や卒園児保護者の方々の大きなサポートもあり、以前よりも広範囲に「未就園児クラス」の案内を配布することができている。また周辺の『子育て支援施設』への訪問も始めたりで、子育て支援クラス利用者の数が増えつつある。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児3歳児も『預かり保育』の利用ができるなどを、さらに広く知らせることで、多くの家庭が3歳児クラスを利用できるようにしていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。 ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。 ・未就園3歳児の預かり保育利用人数。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組

- ・学校運営協議会を核として、さらに地域の環境や人材の活用に努める。
- ・教育内容、未就園児教育相談や預かり保育の取組などについて、地域へのチラシ配布やポスター掲示等の協力を依頼し、乳幼児親子が集う場への積極的なアプローチにも努める。
- ・地域の高齢者施設や公園での集まりなどへの積極的な交流。
- ・KKP での積極的な情報発信や共有に努め、地域の子どもたちのより良い育ちにつなげる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校運営協議会を中心とした地域の方々の意見。
- ・KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・学校運営協議会を中心とした地域の方々の意見。⇒本日以降記入
- ・KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無
夏季合同研修やおはよう運動に向けての取組などの中で、ブロックの中での『幼稚園』の役割を果たしている。
- ・アンケート
⑨ 幼稚園は地域の保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。
《96%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答》

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ブロック研修への出席は、他の会合や園の取組などと重なり、すべて出席することは難しい状況であるので、会合の内容により、幼稚園の立場からの意見が必要な時に出席できるようにする
- ・今後さらに、保護者の方に対して、地域の中での子どもたちの育ちを大切にしていることをお伝えしていく。

分析を踏まえた取組の改善

- ・幼稚園は主に『室町・京極小学校』との連携を深めることで、KKP とつながりを構築していきたいと考えている。
- ・今後さらに、保護者の方に対して、幼稚園では、地域の中での子どもたちの育ちを大切にしていること、またその中の具体的な子どもの育ちの姿をお伝えしていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校運営協議会を中心とした地域の方々の意見。
- ・KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無。
- ・アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

園は地域の方々の協力を得て、運営協議会の意見も反映して進めていっていると感じる。
園は地域とのコミュニケーションをよくとっているので、今後とも、続けていってほしい。
さらに地域（各種団体）との交流を推進していってほしい。（住民福祉連合会としても応援していく）

--	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標 教職員が心身共に健康で、互いに学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い明るい職場環境づくりをめざし、自らの働き方に関する意識改革を進める。
具体的な取組 <ul style="list-style-type: none">出退勤管理システムによる客観的な記録をもとに、よりよい働き方や適切な勤務時間を意識し、問題点について考え、改善策を探る。会議や打ち合わせの精選、効率化を図る。教職員も快適に業務が行えるような環境つくりに努める（資料や物品の整理・配置・室内環境など）教職員に様々な勤務の形があり、全員が同じ時間帯にそろうことが難しいが、日頃から声を掛け合い、一人一人が欠かせない存在として認め合い、補い合うチームとして意識を高め、業務にあたる。
(取組結果を検証する) 各種指標 <ul style="list-style-type: none">会議や打ち合わせの実施状況。教職員の勤務時間及び年休取得状況。

中間評価

各種指標結果 <ul style="list-style-type: none">会議や打ち合わせの実施状況。 先を見通して内容を精選する、担当者が管理職と事前に相談するなどして、最小限の回数・時間で行えるように、工夫をした。教職員の勤務時間及び年休取得状況。 勤務時間は昨年と比べ、短縮の傾向にある。 年休取得状況も、昨年同様、各自が必要な時に取得できている。

自己評価	分析（成果と課題）
	事務的な打ち合わせは文書などで行うことによって、子どもの姿からの内面の理解や具体的な手立てを考えるなどの『話し合い』の時間より長く持つことができている。 勤務時間は、預かり保育が8時から18時まである中ではあるが、比較的に超過勤務は少なくなっている。
	分析を踏まえた取組の改善
	勤務時間の削減は、教職員の心身ともな健康⇒より充実した保育の実現のために欠かせないものであるため、今後ともそれぞれの時期の『繁忙』の度合いに応じて、メリハリのある働き方を推進していく。 年度末に近づくにつれて、例年勤務時間が延びる傾向があるため、引き続き、見通しをもって保育や環境の準備をすること、教職員全体で業務を分散させることを心掛ける。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 会議や打ち合わせの実施状況。 教職員の勤務時間及び年休取得状況。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 今後とも、園の教職員が必要な時に休みことができ、健康的に勤務（保育）できるように援助していく。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策